総合教育センターだより

街路樹

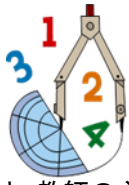
発行第１２６号
平成３０年１０月２９日（月）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

教師力upの素の活用～算数・数学～
★「教師のコーディネート力」upを目指して★

平成30年7月に「平成30年度授業改善グランドデザイン（福島県教育庁義務教育課）」が出されました。［ふくしまの『授業スタンダード』を活用した授業の充実］の章では、算数・数学の授業改善について、「数学的に表現する力」「振り返って考える力」をつけることや「ねらいを明確にした『まとめ・振り返り』の場を設定すること」などが具体的に掲載されています。

これらの改善の視点においては、「教師のコーディネート力」を活かしていくことが重要であるといえます。算数・数学の「教師力upの素」の中には、以下の5つのポイントをおさえた「教師のコーディネート力」のヒントとなる動画を見ることができます。

【①子どもの見取り】
・学習課題をとらえているか、解決の見通しを持っているか。（例：中2 「式の計算」）
【②子どもの話や意見を生かす】
・子どものつぶやきや考えを聴き、全体に広げる(返す)。（例：小5「小数のかけ算」）
【③個人差を生かす】
・友達の考えをしっかり聞き、その思いをくみ取る。（例：小2「かけ算」）
【④子ども同士の学び合いの場の設定】
【⑤子どもに「できた」と実感させる支援】



なお、動画と合わせて、「解説用シート」では、教師の主な発問や授業スタンダードに関わる授業のポイントなどについても知ることができます。ポイントを空欄にした「研修用シート」とともに先生方の授業力向上に是非ご活用ください。

「一番困っているのは子ども」～教育相談部～

～ある日の相談から～

相談員：来所された理由をお聴かせください。 お子さんのどんなことで困っていますか？

保護者：家では困っていることはないのですが、学校ではトラブルが多いとのことなので、相談に来ました。

学校との共通理解が図られていないこの状態では、子どもへの適切な支援をスタートさせることはなかなか難しいものです。多くの保護者は、子どもの発達を心配していても他の子どもとの違いを認めたくないというのが共通の思いです。そこで相談員は、良好な関係を築くことが第一歩と考え、保護者の話に耳を傾けます。そして、その中から子どもの“困っていること”に気づき、それを改善するための方法を『ともに考えていきましょう』と伝えるようにしています。

子どもへの支援を効果的に進めていくためには、学校と家庭、様々な関係機関が協力して子どもを育てるという関係づくりが何よりも重要です。一番困っているのは子ども…その子ども自身の“困っていること”を共有し、「今、できること」を協力して行っていく、というスタンスが大切であると感じています。

研修を実施する上で、引き出しを増やしてみませんか？

授業を行ったり、校内で研修をしたりする際に、「もっと意見交換をスムーズにしたい」や「もっと活発な意見が交わせるような温かい雰囲気が作れたら」と思った時はありませんか。

授業、校内研修の活性化に向けて、きっと効果が上がると思われる手法をいくつかご紹介したいと思います。

まずは、オープニングでの「アイスブレイク」です。４人一組になり、「となりのとなり」を行ってみてはいかがでしょうか。「となりのとなり」は、「〇〇好きな△△です。」その隣の人は「〇〇好きな△△の隣にいる□□好きな××です。」その隣の人は「〇〇好きな△△の隣にいる□□好きな××の隣にいる★★好きな☆☆です。」と続ける方法です。初任者研修で実際に取り入れてみたところ、先生方の表情が一気に明るくなり、その後も活発な意見が交わされました。別の研修では「トゥエンティーワン」も実践してみました。これは1から21までを声が重ならないように、カウントする方法です。これも場の雰囲気をとても和やかにし、意見を交換しやすい雰囲気を作ります。

もう一つは、「発表・セッション」です。４人一組になり、「ポスターセッション」を行ってみてはいかがでしょうか。

【ポスターセッションの方法】
①班ごとで話し合った内容をまず模造紙等にまとめます。付箋紙によるカテゴリー分類等も有効です。
②発表者以外の3人が他の班に移動し、発表を聞きます。質疑応答も交わします。
③はじめの班に戻り、もらった意見をもとに、話し合いの内容をさらに深めます。
④別グループの班員に向けて、先ほどとは異なる人が発表します。

これは、研修で行った際に、発表が視覚的であることと、他のグループの人と何度も質疑応答することによって、それぞれのグループの話合いが、とても深まっていく効果的な手法でした。

センターでは先生方が日常の教育実践に生かせるように、このような演習を行っています。センターの研修をぜひ体験していただき、この学びの秋に、授業や研修にと活用してみてはいかがでしょうか。